

福知山市自治基本条例推進委員会（第1回）概要報告

〔日 時〕 令和2年11月27日（木）14：00～15：30

〔場 所〕 ハピネスふくちやま 会議室2

〔出席者〕 委員…7人、事務局…4人、傍聴者…3人

■開会

■委員長・副委員長選出

- ・ 委員長に富野委員、副委員長に足立委員が就任

■委員会の趣旨、第1期委員会のまとめ確認

■日常生活、地域活動における疑問や課題の共有

① 情報共有、市民参画

- ・ 市の施策にかかる情報について、地域で生活、活動をしていながら、新聞で初めて知ったということがあった。特に地元と密接している内容については、市の施策を考える時点から、住民が参画できないだろうか。施設管理や地域包括にかかる分野など。
- ・ 子育ての施策を考えるときには、若い世代のお母さんが入るなど、意見を取り入れるとよい。
- ・ コロナによって自治会の集まりがほとんどなくなってしまった。情報の共有が文書だけになり、結局は一方通行になっている。そういった議論の場がないことが閉塞感を生んでいるように感じる。
- ・ 情報共有は、地域活動の中で大切であり、それをしながらまちづくりは進んでいく。
- ・ 集まったの情報共有や意見交換は、今後もなかなか難しい状況にはある。集まらずに、情報を交換できる仕組みを考えることが必要。

② 条例の周知、浸透

- ・ 自治基本条例については、PR不足であり、市民に浸透していない。
- ・ 自治基本条例では、市外からの就労者や学生など市民を幅広く捉えている。企業を巻き込んで共にまちづくりを進めるためにも、広義での市民にもこの条例を浸透させる必要がある。

③ コロナ禍での悩み

- ・ 地域活動においては、コロナウイルスの影響により、今までと違うやり方を求められている。
- ・ SNSなどを活用して、人とつながる方法もあるが、実際に顔を突き合わせていないということが、壁になることもある。

④ 活動の担い手

- ・ 現在活動をしていて、次の世代に活動をつなぐことが大切だと感じるようになった。
- ・ 自治会でも世代交代が必要だと感じる。若い世代の発想で活動を進めていくことがこれから必要。情報発信においてもスピードが上がったが、その反面、そう

いった技術についていけない高齢者へのフォローは必要。

⑤ 活動の支援

- ・ 共に活動をした若者が地域にいるということは、顔見知った関係という今後の安心にもつながる。その中で、イベントにかかる予算が削られていくのは心配。イベントを若者とともに作り上げていくが、どうしてもイベント運営に資金は必要であり、地域の未来への投資（支援）と考えて欲しい。
- ・ 資金は必要だが、基本的には市としても絞っていかないといけない現状はある。そのような状況だからこそ、市民と一緒に金の使い方を考えることができないだろうか。

⑥ 地域づくり組織（地域協議会）

- ・ これから自治会活動についても、小さい単位でできないことも増えてくる。自治会でやること、地域協議会でやることなど明確に分けて、負担を減らしながら活動の継続性が見込めるようになるのではないだろうか。
- ・ 各地域で地域づくり組織が立ち上がっている。中六人部でもワークショップで課題の共有をしてきて、本年度より活動が開始された。開始のときは盛り上がるが、この活動が継続されていくかは心配している。市の支援は必要。

（富野委員長）

■まとめ

- ・ 委員長及副委員長の就任
富野委員長、足立副委員長
- ・ 委員会の主旨、目的の共通確認
- ・ 今後の進め方のイメージ形成

今回の話から、事務局で次回以降の話し合いのテーマ（複数）をまとめ、順に取り上げて話し合っていく。